

EXPO'70 基金

# 2020 年度採択事業決定

## 2025年大阪・関西万博に向け、1970年万博の理念を継承・発展させ、新たな時代の価値創造へとつなぐ活動などを助成

### 50 事業・総額 8,200 万円を助成

1970年の日本万国博覧会の収益金を基につくられた、EXPO'70 基金。関西・大阪 21 世紀協会は、その運用収入の 50% を用いて、「日本万国博覧会 開催の意図\*」の趣旨に適った活動の助成に取り組んでいます。

2020 年度は、2025 年大阪・関西万博に向け、EXPO'70 の理念を継承・発展させ、新たな時代の価値創造へとつなぐ活動を優先採択テーマとして公募。昨年 7 月～9 月に国内外の団体から 179 事業の申請があり、万博記念基金事業審査会（外部委員）の審査を経て、50 事業・総額 8,200 万円の助成を決定しました。

なお、今年度はコロナ禍の影響により、事業の実施期間内（2021 年 3 月末まで）での開催ができない事業については 2021 年 12 月 31 日まで延長を認めるとともに、国外への渡航が制限されているため、オンライン開催など実施内容が変更された事業の助成については、個別に判断することとなりました。

### 2020 年度日本万国博覧会記念基金助成事業

#### 申請件数 179 件

**内訳** 国内事業者：重点事業 14 件、一般事業 139 件  
 国外事業者：重点事業 3 件、一般事業 23 件

#### 採択件数 50 件

**内訳** 国内事業者：重点事業なし、一般事業 41 件  
 国外事業者：重点事業なし、一般事業 9 件

※重点事業は審査の結果、該当なしとしました。

#### \*日本万国博覧会 開催の意図(抜粋)

日本万国博覧会がめざしたものは、世界にはさまざまな文明が多元的に共存することを、理解と寛容の精神によって認め、それらの多様性の調和の中にもこそ進歩が望まなければならない、という「調和的発展」の精神でした。これは東洋思想の「和」の心を現代世界に呼び戻して、東西を結ぶ新しい理念として発展させようとするものでした。

### 2020 年度採択事業の一例

## 凝縮系の光物性物理学国際会議 2020

事業 者：凝縮系の光物性物理学国際会議 2020

期 間：2020 年 7 月～ 9 月（オンライン会議）、11 月 30 日～ 12 月 1 日（集合会議）

開催場所：オンライン会議はインターネット利用、集合会議は京都然林房

光物性物理学において、将来の進むべき方向を探るとともに、日本が世界の指導的立場に立ち、開拓者精神を持った若手研究者を育てることを目的とした国際会議を開催します。併せて、日本文化を世界に向けて発信します。



開催案内

## 「失われたクメール美術」国際文化交流 — 恒久的世界平和を目指して —

事業 者：アジアデザインアート展覧会コンソーシアム

期 間：2020 年 9 月～ 11 月頃

開催場所：カンボジア、日本

ポルポトの文化破壊によって失われたカンボジアの歴史と伝統のクメール美術。その美術教育の復活を目指した国際文化交流展とシンポジウムを開催します。小学生などを対象とした美術ワークショップも数多く行います。



自分の思い描くアンコールワット



クメール美術授業風景 初めての筆と絵具

## 特別展「博覧会の世紀」展

事業者：長崎歴史文化博物館

期間：2021年10月1日～11月28日(予定)

開催場所：長崎歴史文化博物館

19世紀から20世紀にかけて国内外で開催された博覧会の歴史を、絵画、歴史、工芸資料などを通じて紹介します。時代を映す鏡である博覧会と人々とはどのように向き合ってきたのか、2025年の大阪・関西万博開催に向けて考えます。



1872年 文部省博覧会

1940年 紀元二千六百年記念日本万国博覧会

## 比較文明学会国際シンポジウム 「いのち」をめぐる文明的課題の解決に向けて

事業者：千里文化財団

期間：2020年11月21日～11月23日

開催場所：国立民族学博物館

1970年大阪万博の理念「人類の進歩と調和」をいかに継承し、2025年大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にどうつなげるかを比較文明学の視点から検討する国際シンポジウムを開催します。

「第37回比較文明学会大会シンポジウム風景  
(中央大学、2019年)」



## フリゲート・エルトゥールル号の発掘、広報、教育事業

事業者：BOSAV(トルコ)

期間：2021年度で90日間

開催場所：串本町、和歌山市、大阪市、東京都、札幌市、福岡市、秋田市を予定

日本とトルコの強い絆を生んだエルトゥールル号の沈没事故(1890年・串本町大島榎野崎沖)や、トルコ文化について知ってもらうことを目的に、日本各地で「エルトゥールル移動実験室」と名付けたパイロット・イベントを開催。沈没現場から発掘した遺品の一部を展示・紹介するとともに、日本とトルコの友情の歴史を解説します。串本町では、沈没したエルトゥールル号の発掘と研究を実施。掘削地域にマスコミ関係者を集め、2007年から継続する発掘事業と発掘品を公開し、トルコと日本の友好メッセージを発信します。



日本の学生に発掘された遺品について説明の様子



沈没現場から遺品を発掘するダイバー

※各事業の実施時期、実施場所などについては、状況により変更されることがあります。 ※写真は各事業者より提供